INNOVATION IN JAPANESE PHOTOGRAPHY IN THE 1960s

日本写真の転換

1960年代の表現

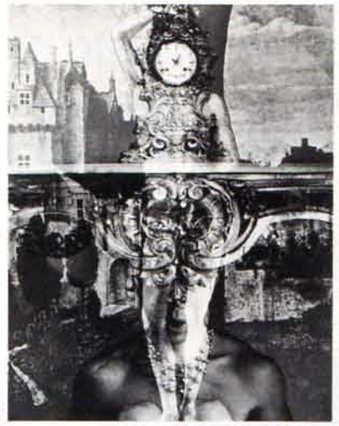
横須賀功光/射　1964

1991年4月18日(木)—6月18日(火)

主催＝東京都写真美術館　開館時間＝午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)
休館日＝第2・4水曜日　観覧料＝一般・大学生200(160)円／小・中・高校生100(80)円
( )内は10名以上の団体料金　展覧会のご案内 Tel.03(3280)0099(テレフォン・サービス)

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 Tel.03(3280)0031(代)
交通機関＝JR恵比寿駅東口より徒歩5分　お車でのご来場はご遠慮下さい

1 細江英公/薔薇刑　1962
2 篠山紀信/熱い肉体　1965
3 桑原史成/水俣病　1962
4 石元泰博/シカゴ、シカゴ　1958-61
5 佐藤 明/サイクロピアン　1962



1

2

3

4

5

INNOVATION IN JAPANESE PHOTOGRAPHY IN THE 1960s

日本写真の転換

1960年代の表現

1950年代前半に土門拳、木村伊兵衛らによって推進されたリアリズム写真運動や林忠彦に代表される戦後のフォト・ジャーナリズム再興の後に、それらを乗り越え、新しい写真表現の姿を模索し独自の手段を築き、さらに展開していった60年代の写真家たち。この展覧会では、これらの写真家たちの営為にスポットをあて、展望しようとするものです。

1957年、写真評論家福島辰夫が組織した写真展「10人の眼」、そこから発生した写真家によるセルフ・エージェンシー〈VIVO〉を結成した東松照明、奈良原一高、細江英公、川田喜久治ら、シカゴの「ニュー・バウハウス」で写真を学び同時代の日本写真に衝撃を与えた石元泰博などの写真は、現実への深い洞察を持ちながら自立した写真表現を達成し、その後の写真に決定的なベクトルを与えたものです。

また、高度経済成長の中で発生してくる新たな社会問題を、独自の視点で切り取っていった長野重一、桑原史成らフォト・ジャーナリストたちの営為は、戦後の報道写真にもうひとつの展開を与えたできごとといってよいでしょう。

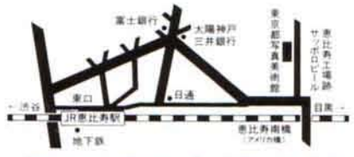
さらに60年代中頃から登場した立木義浩、横須賀功光、篠山紀信などの若い感性は、自由に飛翔する「写真」の新たな持ち方を示すものとして大いに注目されるべきでしょう。

これら日本の60年代における写真表現の展開は、1920、30年代における近代写真確立の中で築かれていった日本写真の核を転換させ、現代の豊かな写真表現を生み出す分厚い基層をなすものといえましょう。

奈良原一高	丹野 章	川田喜久治	細江英公	今井寿恵
佐藤 明	石元泰博	東松照明	長野重一	富山治夫
桑原史成	英 伸三	篠山紀信	立木義浩	横須賀功光
柳沢 信	深瀬昌久			

[フロアレクチャーのお知らせ]
第1回 5月3日金午後2時～
第2回 5月26日日午後2時～
第3回 6月15日土午後2時～

[講演会のお知らせ]
テーマ＝「1960年代の写真表現—海外の動向」
日　時＝6月1日土 午後2時～4時
会　場＝東京都迎賓館(東京都庭園美術館の奥)
東京都港区白金台5-21-9
講　師＝柳本尚規(東京造形大学教授・写真家／写真論)



東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 Tel.03(3280)0031(代)
交通機関＝JR恵比寿駅東口より徒歩5分　お車でのご来場はご遠慮下さい